

2016年3月期 決算説明会



株式会社 **ALPS** 物流

2016年5月9日

代表取締役社長 臼居 賢

第Ⅰ部：2015年度（2016年3月期）決算概要

第Ⅱ部：2016年度（2017年3月期）見通し

第Ⅲ部：2016年度事業戦略

1. 電子部品関連

2. 消費物流（「流通サービス」）



第Ⅰ部：2015年度(2016年3月期) 決算概要

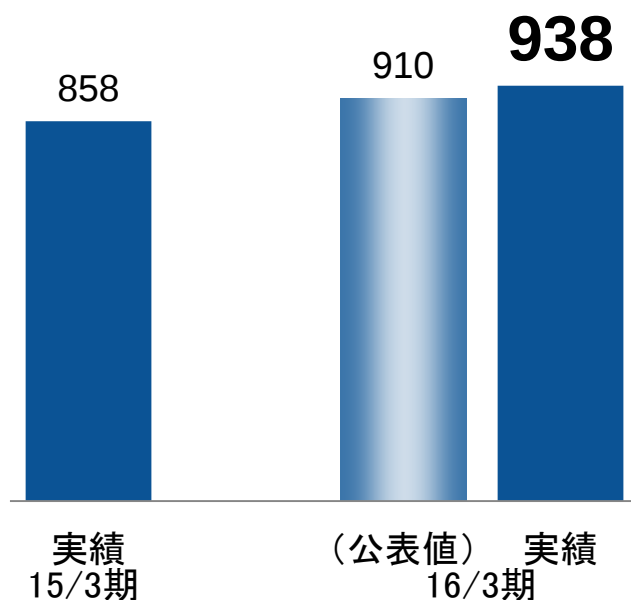
第Ⅱ部：2016年度(2017年3月期) 見通し

第Ⅲ部：2016年度事業戦略

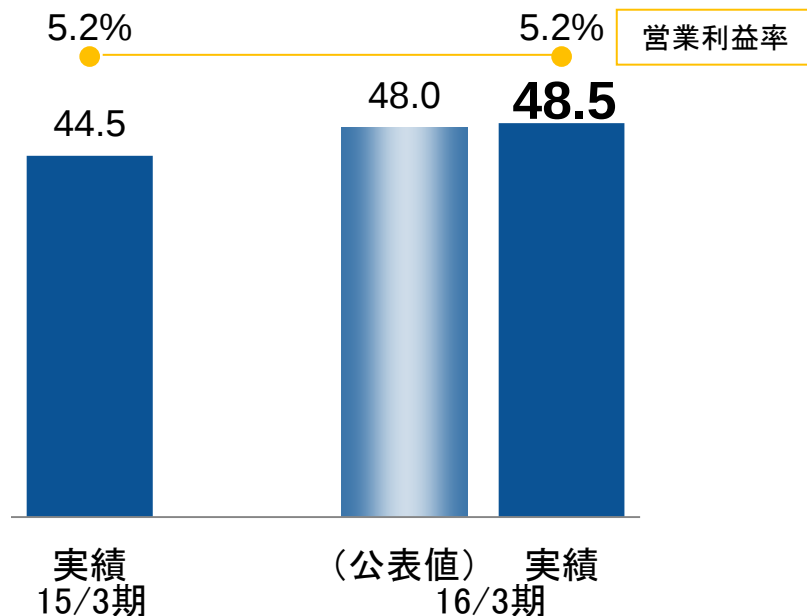
1. 電子部品関連
2. 消費物流(「流通サービス」)

(百万円)	2015/3期 実績	2016/3期		
		実績	増減率（対前期実績）	期初公表値
売上高	85,828	93,818	+ 9.3%	91,000
営業利益	4,457	4,857	+ 9.0%	4,800
経常利益	4,876	5,065	+ 3.9%	4,800
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,544	2,741	+ 7.7%	2,600

■売上高（単位：億円）

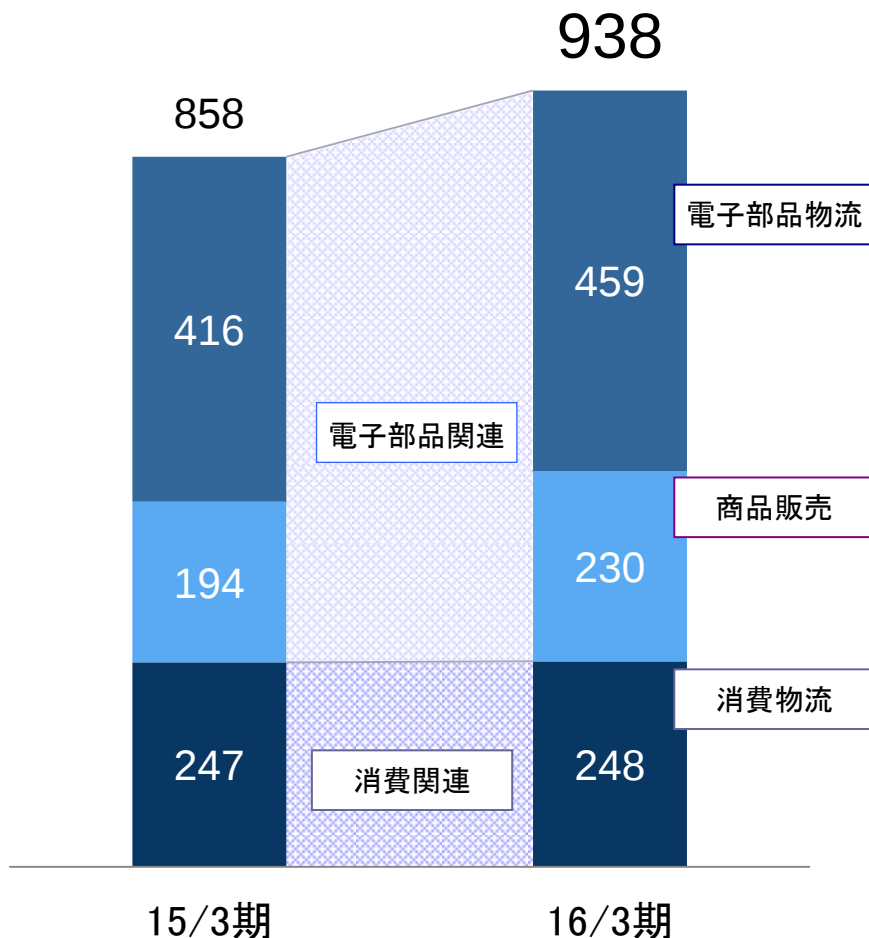


■営業利益（単位：億円）



■セグメント別売上高

（単位：億円）



前期比 +79 億円 (+ 9.3 %)

■ 電子部品物流 +42 億円

- ・ 車載、スマホ中心に電子部品の荷動き堅調
- ・ 国内及び海外の全15現法で増収を達成

■ 商品販売 +35 億円

- ・ 車載関連の需要増でデバイス販売が拡大
- ・ 物流視点での包装改善の提案営業推進

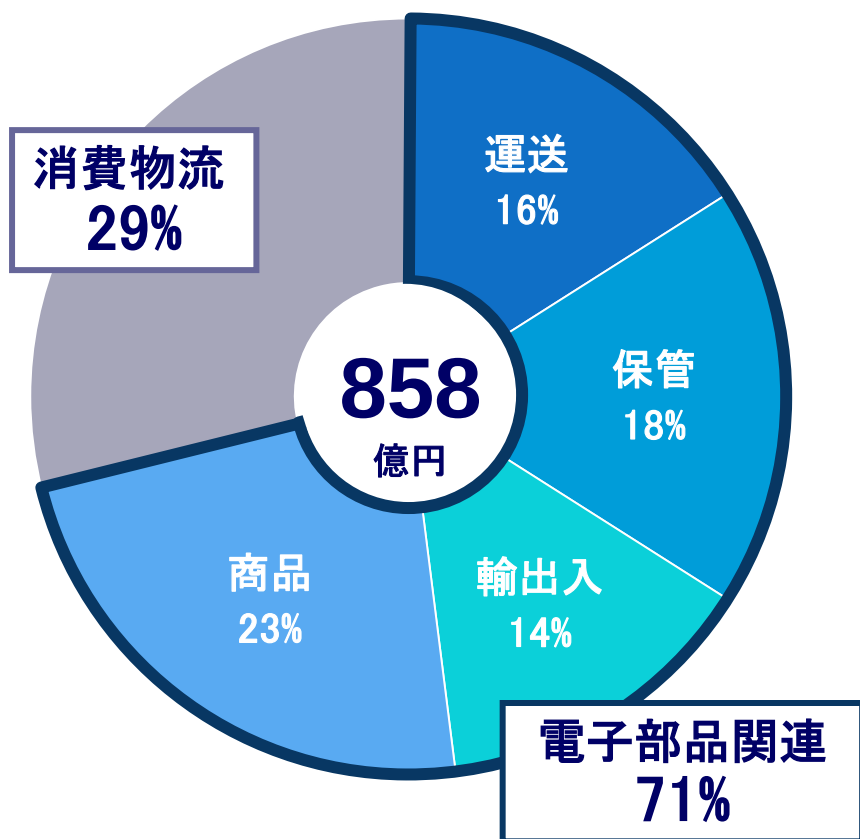
■ 消費物流 + 1 億円

- ・ 生協関連は需要増で個配中心に増収
- ・ 一般顧客は得意分野にフォーカスし減収

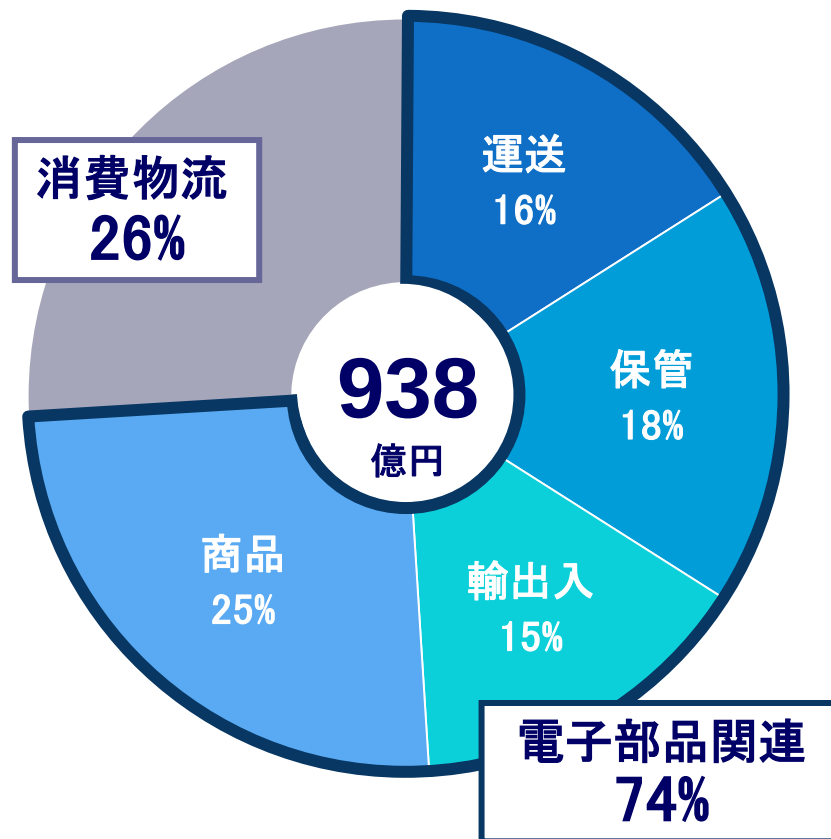
※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です

■事業別構成比

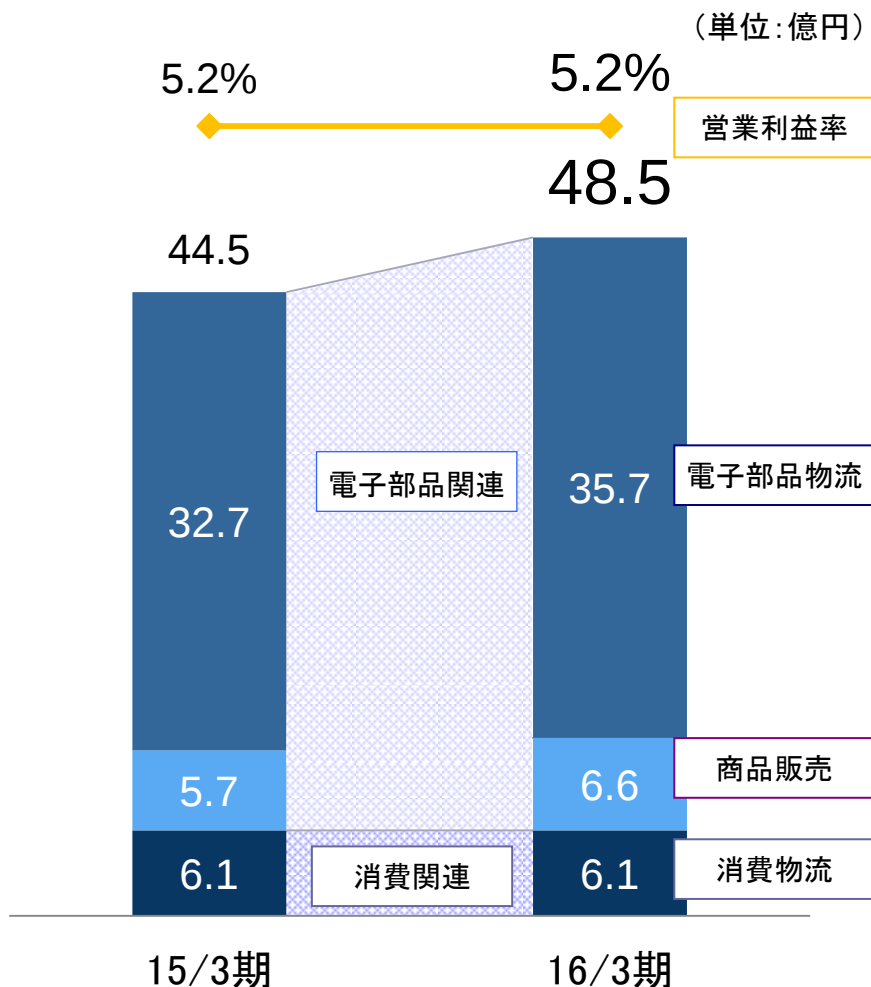
15/3 期



16/3 期



■セグメント別営業利益



前期比 + 4.0 億円 (+ 9.0 %)

■ 電子部品物流 + 3.0 億円

- ・ 海外での大幅増収が利益増を牽引
- ・ 国内は運送事業が外販増で利益貢献

■ 商品販売 + 0.9 億円

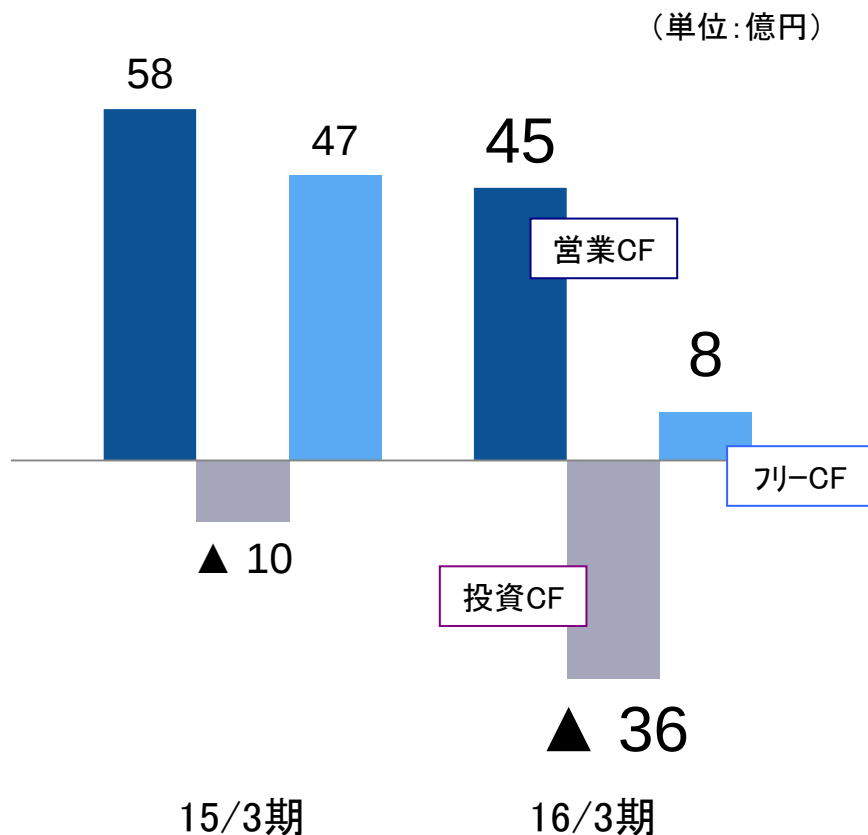
- ・ デバイス販売の大幅増収により増益
- ・ 成形材や包装資材も拡販で増益寄与

■ 消費物流 + 0.0 億円

- ・ ドライバー不足対応の労務費、経費が増
- ・ 原油価格低下や運営効率化等でカバー

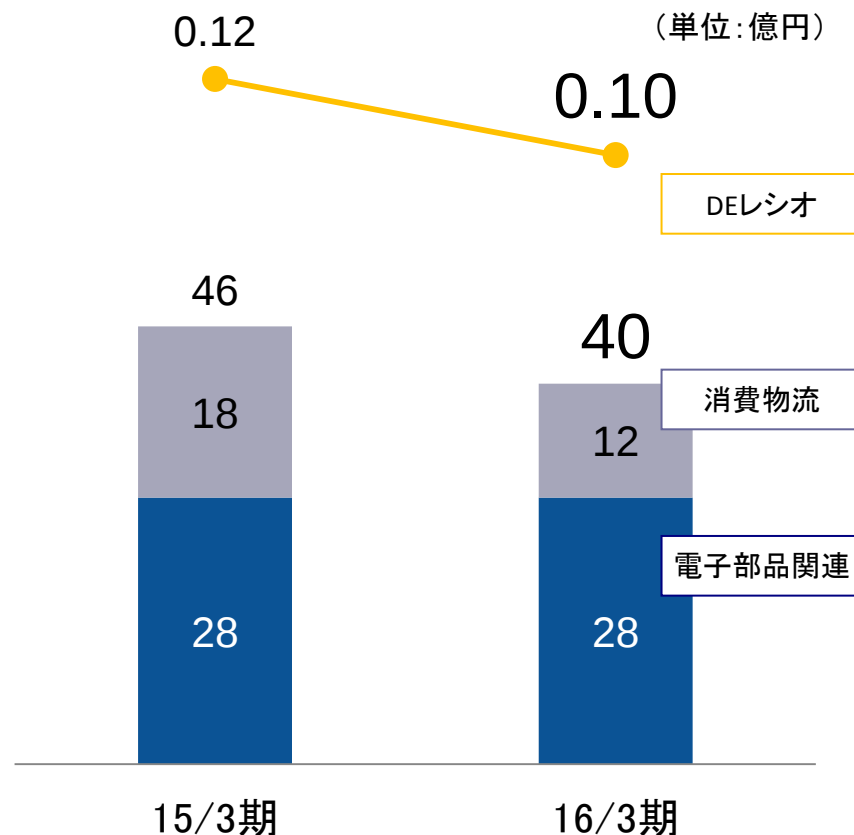
※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です

■ キャッシュフロー



- ・営業CF: 税金支払時期が影響し13億円減
- ・投資CF: 3倉庫の建設等で26億円の支出増

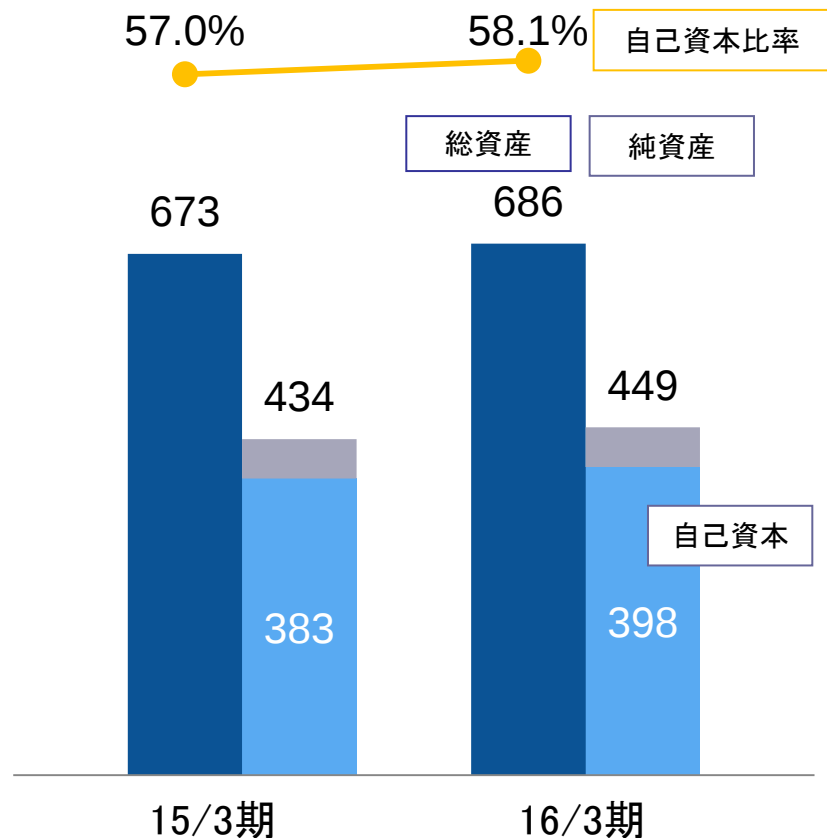
■ 有利子負債残高



- ・長期借入金6億円返済で残高40億円に
- ・DEレシオは0.02p改善し、0.10倍に

■ 資産状況

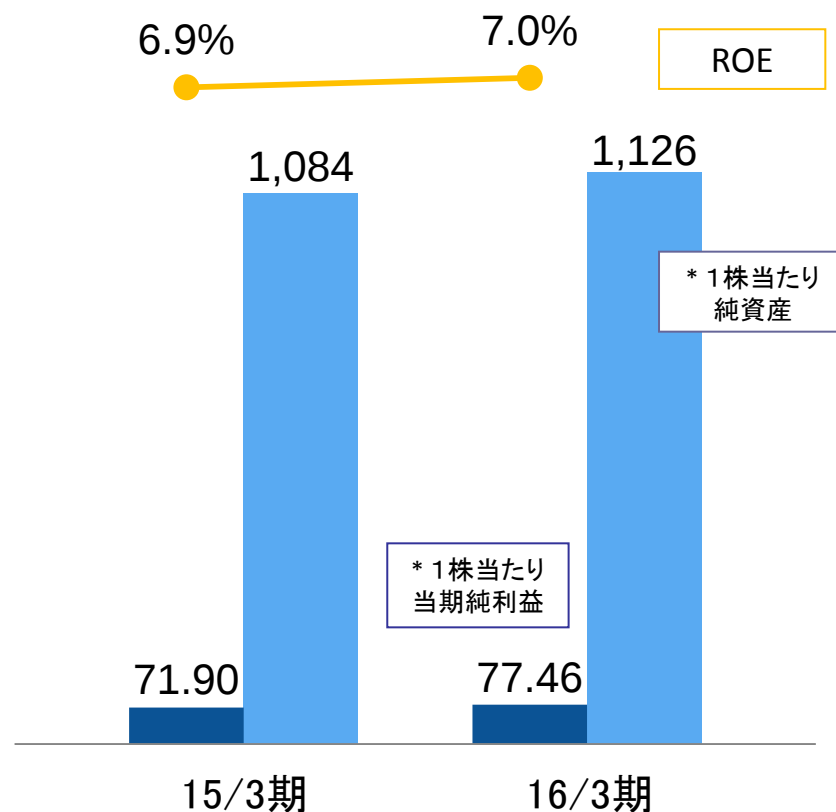
（単位：億円）



- ・総資産：増収で売掛債権増加 +13億円
- ・自己資本比率：資本増・負債減で1.1p上昇

■ 1株当たり指標

（単位：円）



- ・EPS：純利益の増加に伴い+5.6円
- ・ROE：自己資本増も増益で+0.1ポイント

*株式分割実施後の株式数にて計算



第Ⅰ部：2015年度(2016年3月期) 決算概要

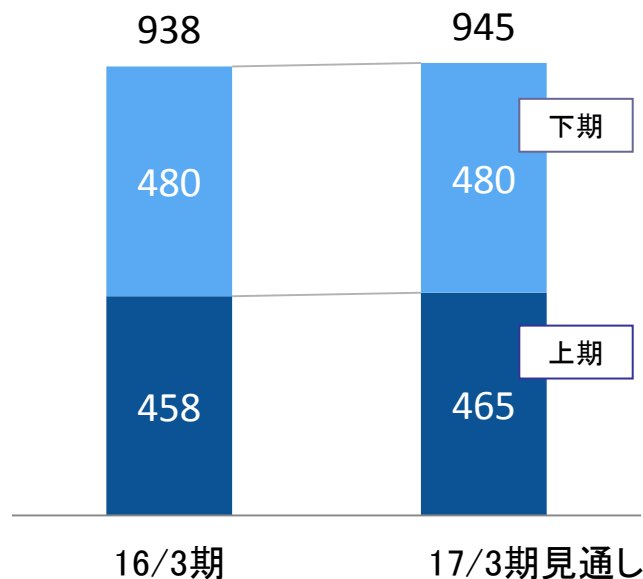
第Ⅱ部：2016年度(2017年3月期) 見通し

第Ⅲ部：2016年度事業戦略

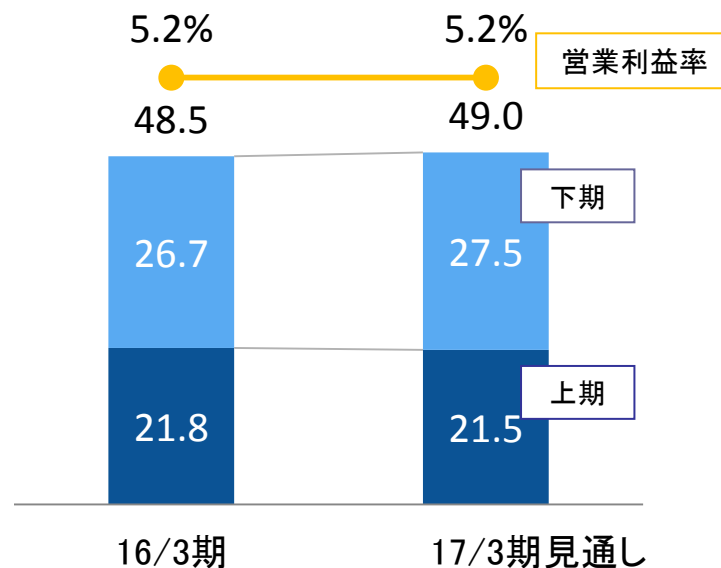
1. 電子部品関連
2. 消費物流(「流通サービス」)

(百万円)	2016/3期		2017/3期		
	実績	率	見通し	率	増減率
売上高	93,818	—	94,500	—	+ 0.7 %
営業利益	4,857	5.2 %	4,900	5.2 %	+ 0.9 %
経常利益	5,065	5.4 %	4,950	5.2 %	▲ 2.3 %
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,741	2.9 %	2,780	2.9 %	+ 1.4 %

■売上高 （単位：億円）

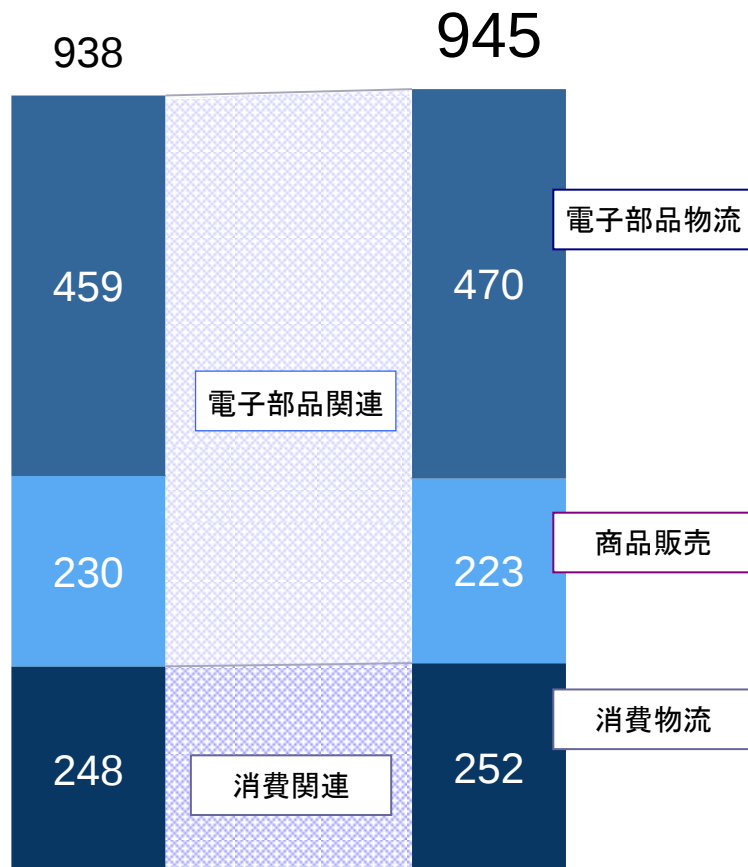


■営業利益 （単位：億円）



■セグメント別売上高

（単位：億円）



16/3期

17/3期見通し

※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です

前期比 +7 億円 (+ 0.7 %)

■ 電子部品物流 + 11 億円

- ・ 国内はネットワーク拡充と外販推進で増収
- ・ 海外拡大継続も円ベースでは円高影響

■ 商品販売 △ 7 億円

- ・ デバイス販売は現調化もあり需要一巡
- ・ 包装資材はグループ外への拡販推進

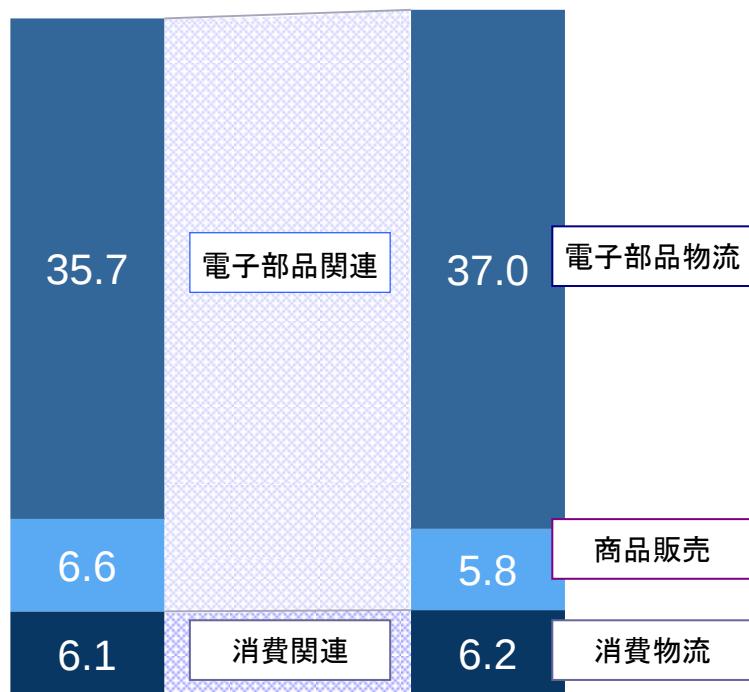
■ 消費物流 + 3 億円

- ・ 生協関連は引き続き受託拡大を計画
- ・ 一般向けは得意分野への集中を継続

■セグメント別営業利益

(単位: 億円)

5.2% → 5.2%
48.5 → 49.0
営業利益率



16/3期

17/3期見通し

※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です

前期比 + 0.5 億円 (+ 0.9 %)

■ 電子部品物流 + 1.3 億円

- ・ グローバル拡販による増収効果で増益
- ・ 現場改善・省力化による体質強化推進

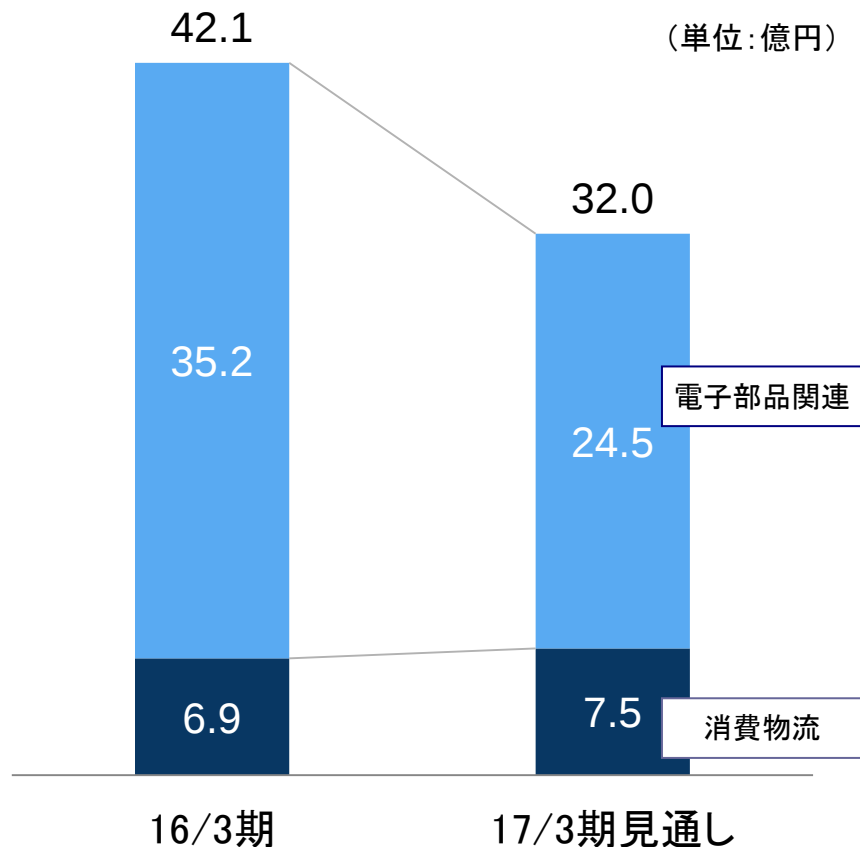
■ 商品販売 △ 0.8 億円

- ・ デバイス販売の減収に伴い利益減の見通し
- ・ 安定的な利益確保を目指す

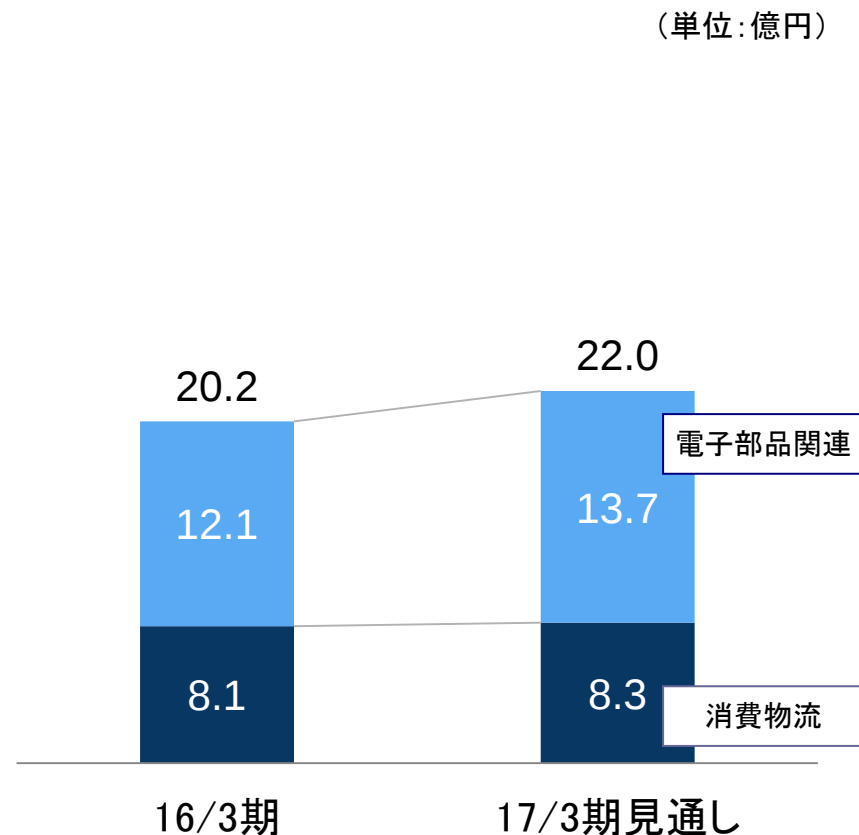
■ 消費物流 + 0.0 億円

- ・ ドライバー不足対応のコスト増は継続
- ・ 現場改善や人員の効率活用を推進

■設備投資



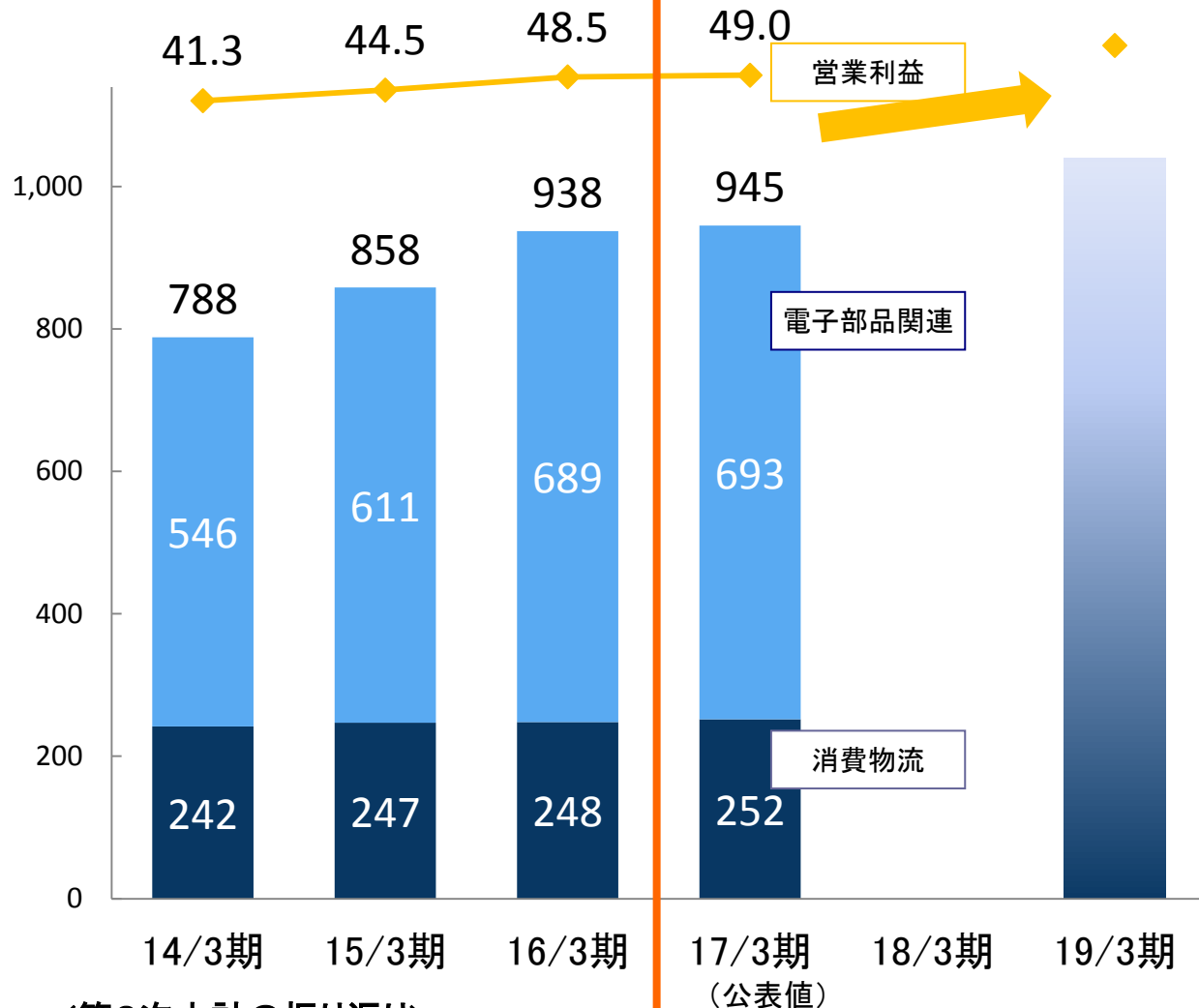
■償却費



- ・16/3期は3倉庫の建設(22億円)を実施
- ・17/3期は国内新拠点の開設投資を含む

- ・17/3期は前期の大型投資等で1.8億円増に
- ・17/3期も償却費以上(+10億円)の投資計画

（単位：億円）



基本方針

「最適物流」を追求し
グローバル成長を加速

- 連結売上高 1,000億円
の達成
- 営業利益記録更新への
チャレンジ
- 次の飛躍に向けた
事業基盤の強化

<第2次中計の振り返り>

中期目標 売上高 800億円(達成)

営業利益 45億円(達成)



第Ⅰ部：2015年度(2016年3月期) 決算概要

第Ⅱ部：2016年度(2017年3月期) 見通し

第Ⅲ部：2016年度事業戦略

1. 電子部品関連

2. 消費物流(「流通サービス」)

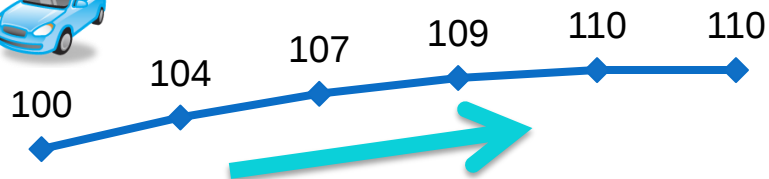
1. 電子部品関連



機器動向

※数値は2012年を100とした指数
（出典：実績・見通し—OICA、予測—当社予想）

【自動車世界販売台数】

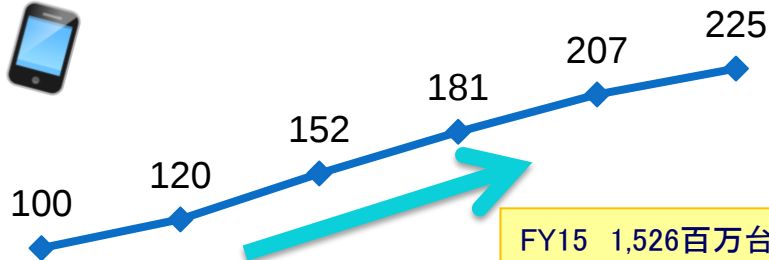


FY15 89.6百万台
FY17 90.2百万台

2012年 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年
見通し 予測 予測

2016年には90百万台を突破、高原状態継続の見通し

【スマートフォン世界出荷台数】（出典：総務省）



FY15 1,526百万台
FY17 1,889百万台

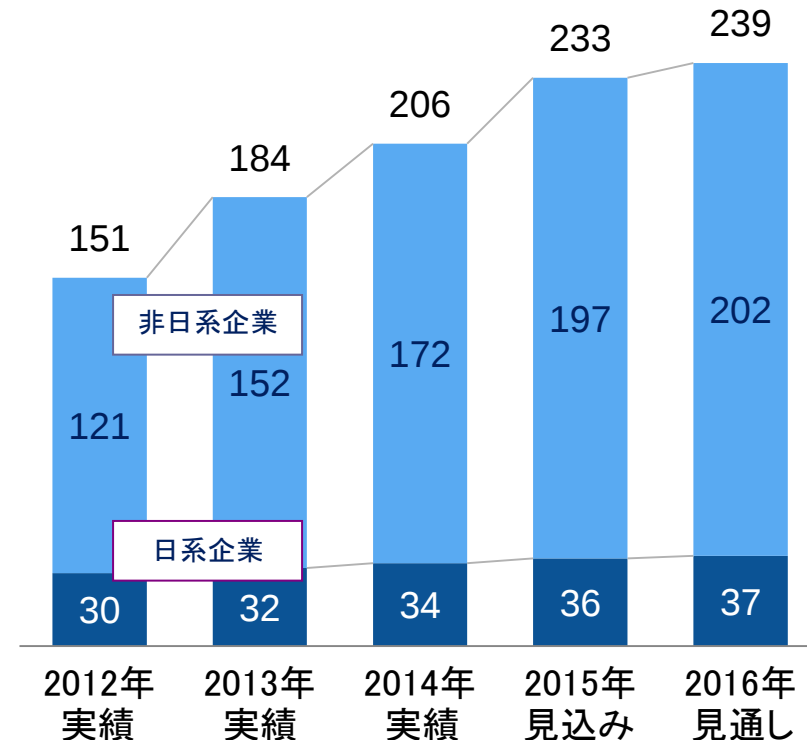
2012年 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年
見通し 予測 予測

先進国では、高価格モデル向けの需要が一巡も、
新興国向けを中心とした中低価格モデルが普及

電子機器動向

（出典：JEITA ITソリューション除く）

【電子情報産業の世界生産額】（単位：兆円）



2016年の世界生産は自動車IT化伸長等で2.1%増

- ・日本の電子産業は、IT化やIoTの普及などにより増加基調（2016年は、1.1%増）
- ・車載向けは、IT化の進展等により安定成長へ
- ・スマートフォンの規模拡大により、高性能且つ小型部品の需要が今後も継続

顧客

- 半導体・部品メーカーの**再編**
- **非日系**部品メーカーの増加
- 部品の**小型・モジュール化**
- 電子機器・部品の**低価格化**
- **最適地生産へのシフト**継続
- 物流費低減の取り組み強化

競合

- **高品質・高精度運用**の追随
- 新たな進出先での競争
- 物流企業の**再編、集約化**
- **物流効率化**への提案力向上
- M&Aによる大手の物量確保
- 人員不足は業界共通の課題



当社の取り組み

- 未開拓領域への拡販
➡ **新市場・新顧客**への拡販
- 最適地生産へのシフト
➡ **国内外ネットワーク**の拡充
- 物流効率化の仕組み提案
➡ **営業力**の強化
- 原価対応力の強化
➡ **自動化・省力化**の推進
- 取扱・物流技術の高度・多様化
➡ **「最適物流」「感動品質」**の追求
- 省エネ・環境への貢献
➡ **環境物流**への対応



中期基本方針

お客様毎の「最適物流」を追求しグローバル成長を加速
～連結売上1,000億円の達成と次の飛躍に向けた事業基盤の強化～

2016年度の事業方針と展開施策



GTB (Business)

「新領域」への挑戦

- ① 新市場、新顧客への拡販取組み
- ② 国内外のネットワーク拡大と拠点整備
- ③ 営業力の強化

GTP (Profit)

現場革・進と基盤強化

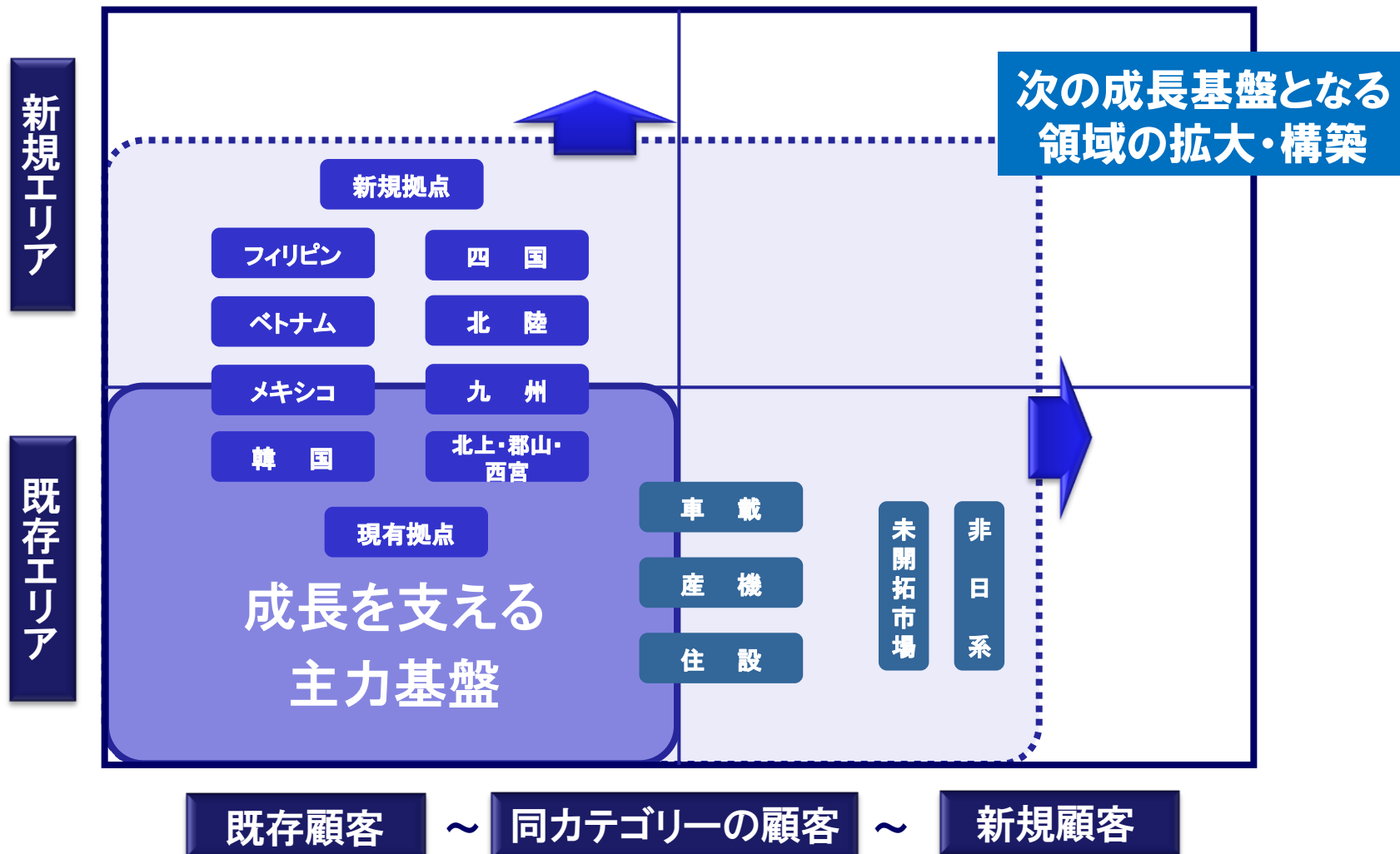
- ① 自働化・省力化の推進
- ② 「3M+2S」の徹底見直し
(3M+2S: Man, Machine, Method, Space, System)
- ③ 戦略投資の実行

GTC (Confidence)

競争優位性の拡大

- ① 「最適物流」サービス向上による差別化
- ② 「感動品質」の追求と「環境物流」への対応
- ③ 人材の育成とコーポレートガバナンスの進化

主力基盤を強化・拡大し、新領域(新規エリア・新規顧客(市場))を構築



「ネットワークの継続拡充」と「新市場を視野に入れた能力増強」

倉庫拡張

(2015年度実績)

- 北上(増築) +3,800m²
- 郡山(増築) +8,000m²
- 西宮(開設) +5,500m²

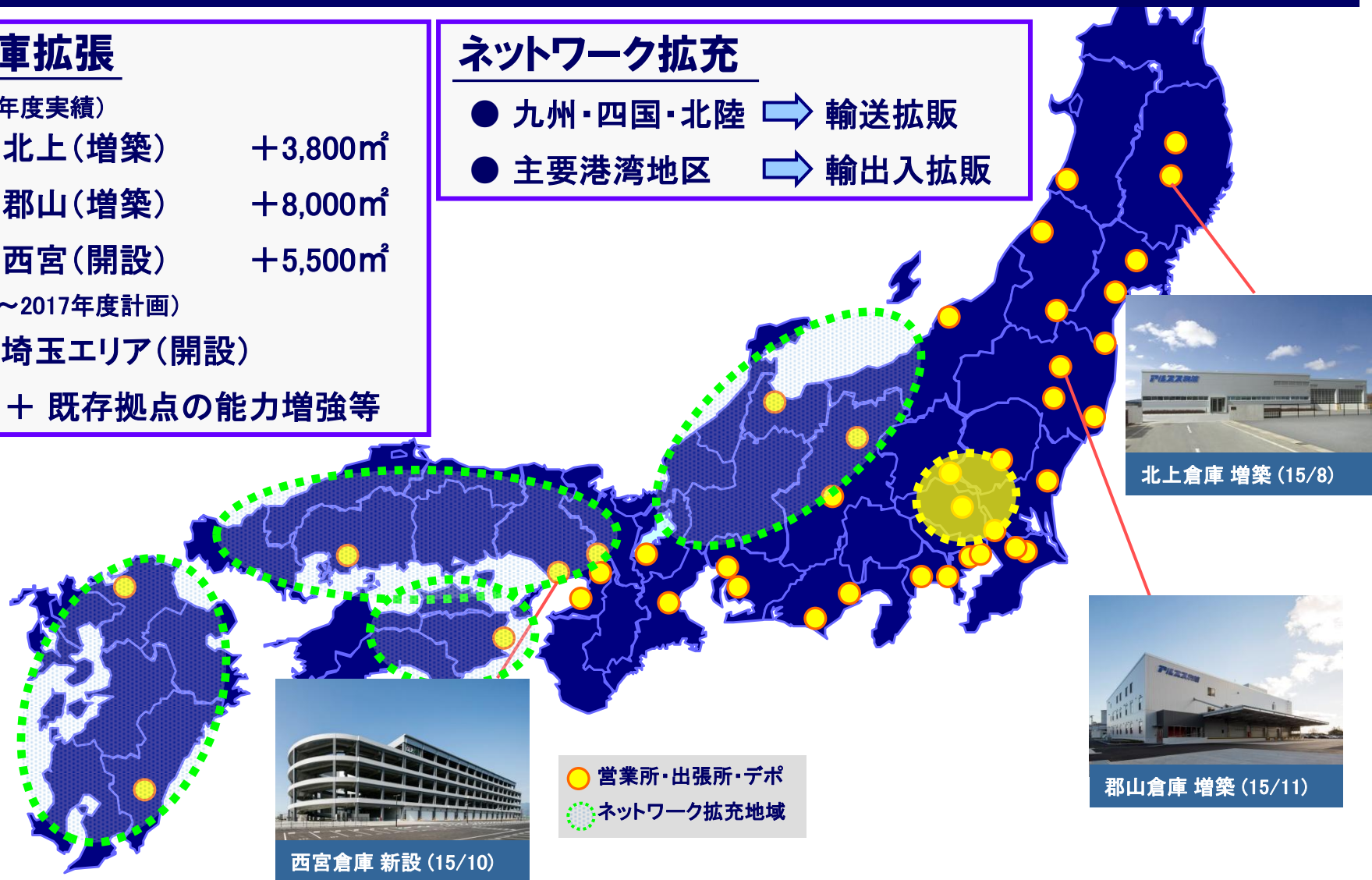
(2016～2017年度計画)

- 埼玉エリア(開設)

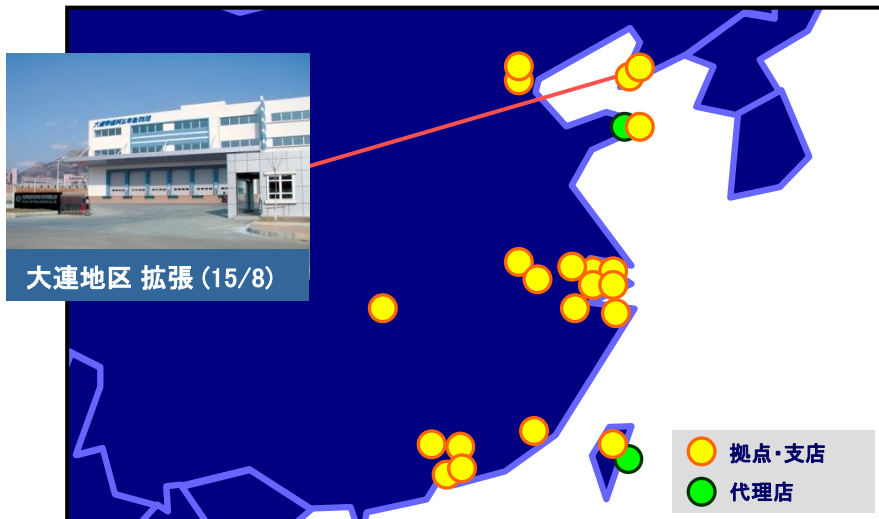
+ 既存拠点の能力増強等

ネットワーク拡充

- 九州・四国・北陸 → 輸送拡販
- 主要港湾地区 → 輸出入拡販



【中国・台湾】 広域営業活動の強化

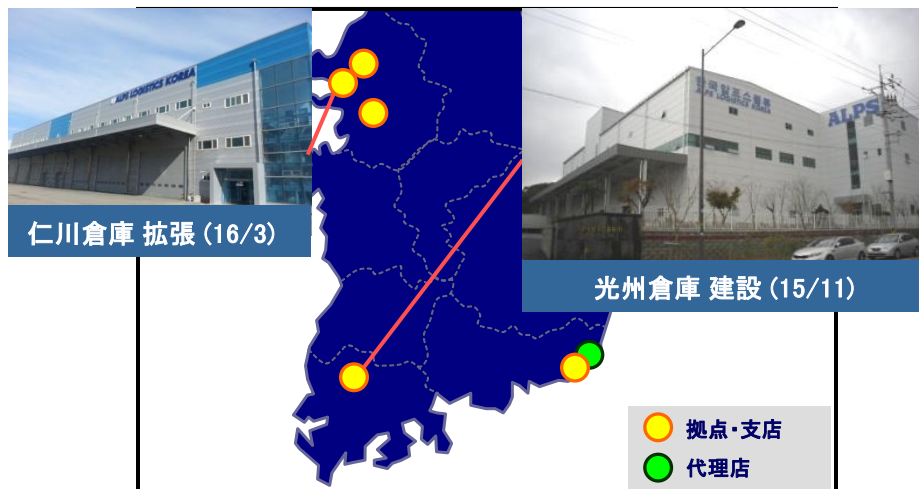
深耕拡販

- 中国ビジネスの知見を活かした受注獲得
- 未受託、非日系顧客への提案営業強化

新市場への取り組み強化

- 越境EC向け保税サービスの拡販
- 車載を中心とした新規顧客の開拓

【韓国】 新設・拡充拠点をベースとした拡販推進

倉庫拡張 (2015年度実績)

- 光州(新築) + 7,100m²
- 仁川(拡張) + 660m²

輸出入事業の拡大・保管能力の増強

- 仁川・釜山の活用と光州倉庫事業の拡大
- 各拠点の保管能力の増強

【ASEAN】拠点ネットワークの活用による拡販強化



ベトナム駐在員事務所(15/10)

フィリピン駐在員事務所
(16/4)タイ・レムチャバン倉庫
拡張(16/2)タイ・スワンナプーム
空港事務所開設(15/8)● 拠点・支店
● 代理店

拠点拡充

(2015年度実績)

- ベトナム駐在員事務所の開設
- タイ・レムチャバン倉庫の拡張
- タイ・スワンナプーム空港事務所の設置

(2016年度計画)

- フィリピン駐在員事務所の開設（4月済）
- ベトナム・フィリピンの法人化推進
- 新拠点展開検討

拡販強化

- クロスボーダー輸送の事業拡大
（タイ～カンボジア、タイ～マレーシア、
中国～ベトナム）
- 代理店（5ヶ国5都市）との協業による新規
受注の獲得強化

【米州】車載関連を中心とした拡販強化



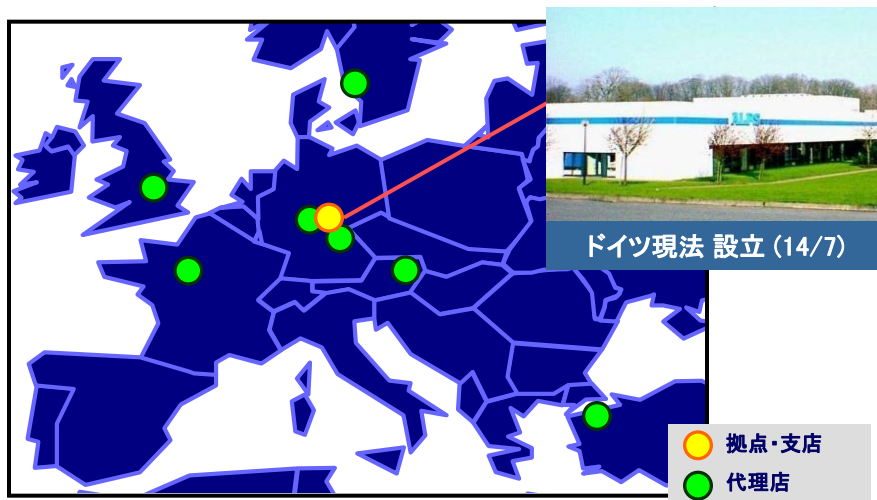
既設拠点を活かした営業強化

- 保税機能を付加した保管能力強化と拡販
- アメリカ・メキシコ間輸送ネットワークの確立と拡販の強化

新市場への取り組み

- 空港拠点設立による輸出入事業の検討

【欧州】域内ビジネスの開拓・拡販と事業の安定化



輸出入事業の拡販

- 代理店(6ヶ国7都市)との協業拡販
- AEO資格取得による優遇措置の積極活用

ネットワークの拡大

- グループ貨物取扱高の確保・拡大
- 欧州内ネットワーク拡充と外販拡大

新市場（車載・産機・住設）への深耕拡販の継続

【高品質・高精度・少量多品種】

【重点ターゲット市場】



車載電装（継続）

●車業界特有の
物流ニーズに対応

➡ 顧客数増加

産業機器（継続）

●多品種少量・高精度
運用の提唱

➡ 調達物流＋包装

住宅設備（継続）

●給湯、セキュリティ、
省エネ関連

➡ 調達物流提案



拠点数

【国内】



【海外】



15/3期

40



16/3期

41



17/3期計画

42

ヶ所

44



45



46

ヶ所

倉庫面積

【国内】



238



255



258 千㎡

【海外】



246



251



252 千㎡

トラック数

【国内】



582



613



618 台

【海外】



273



290

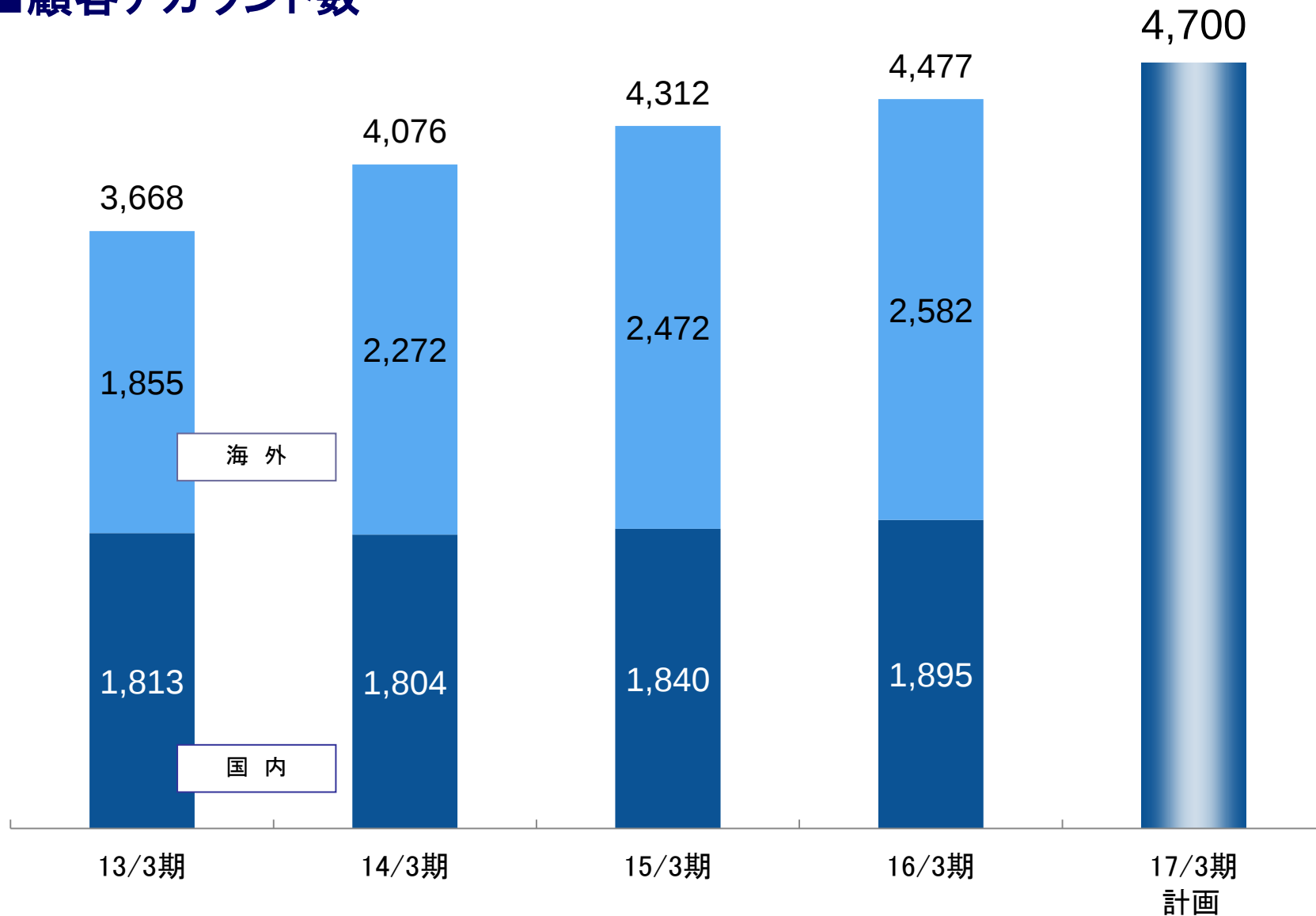


300 台



■顧客アカウント数

(単位:社)

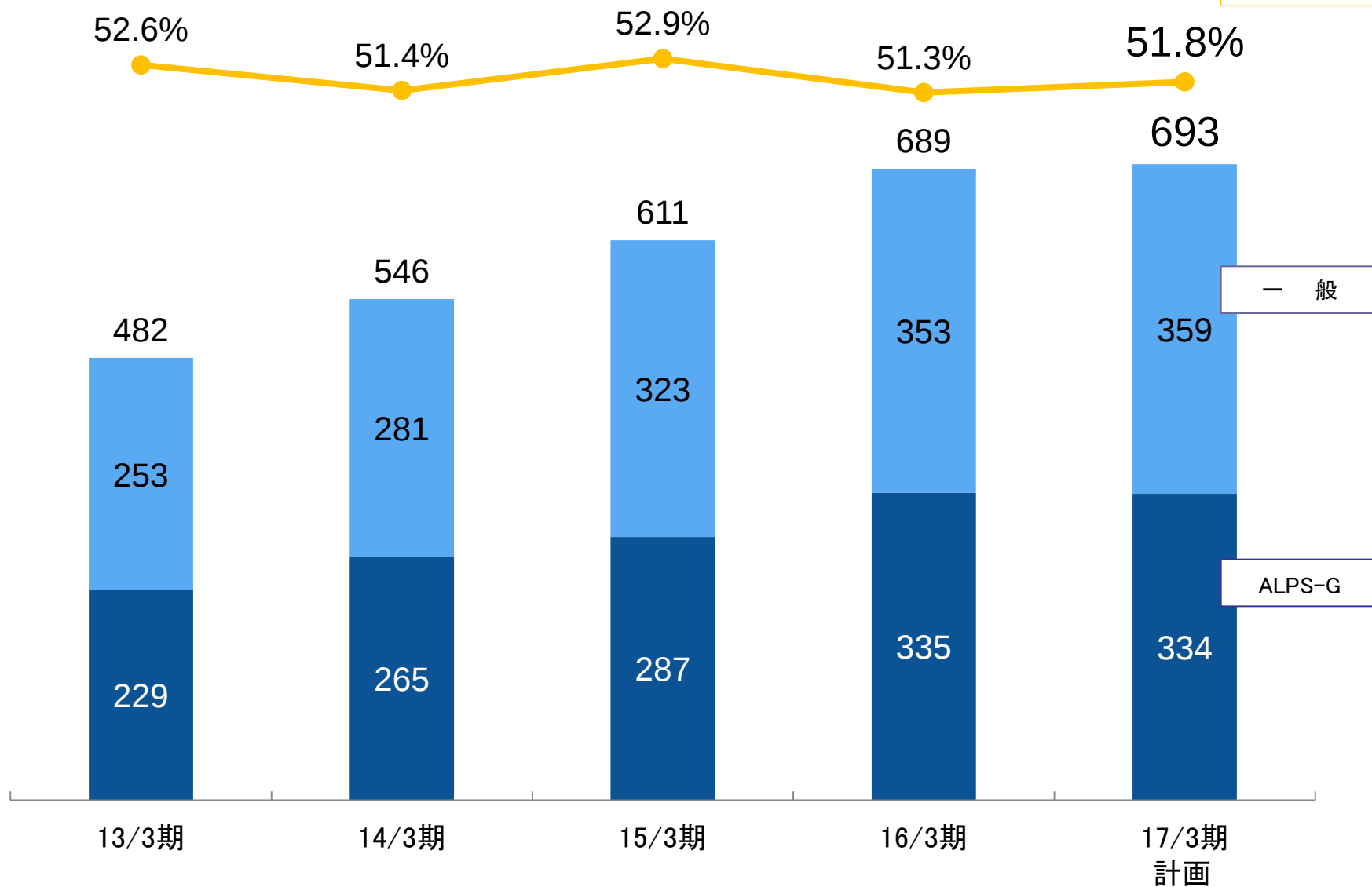




(単位: 億円)

■顧客別売上高

外販比率

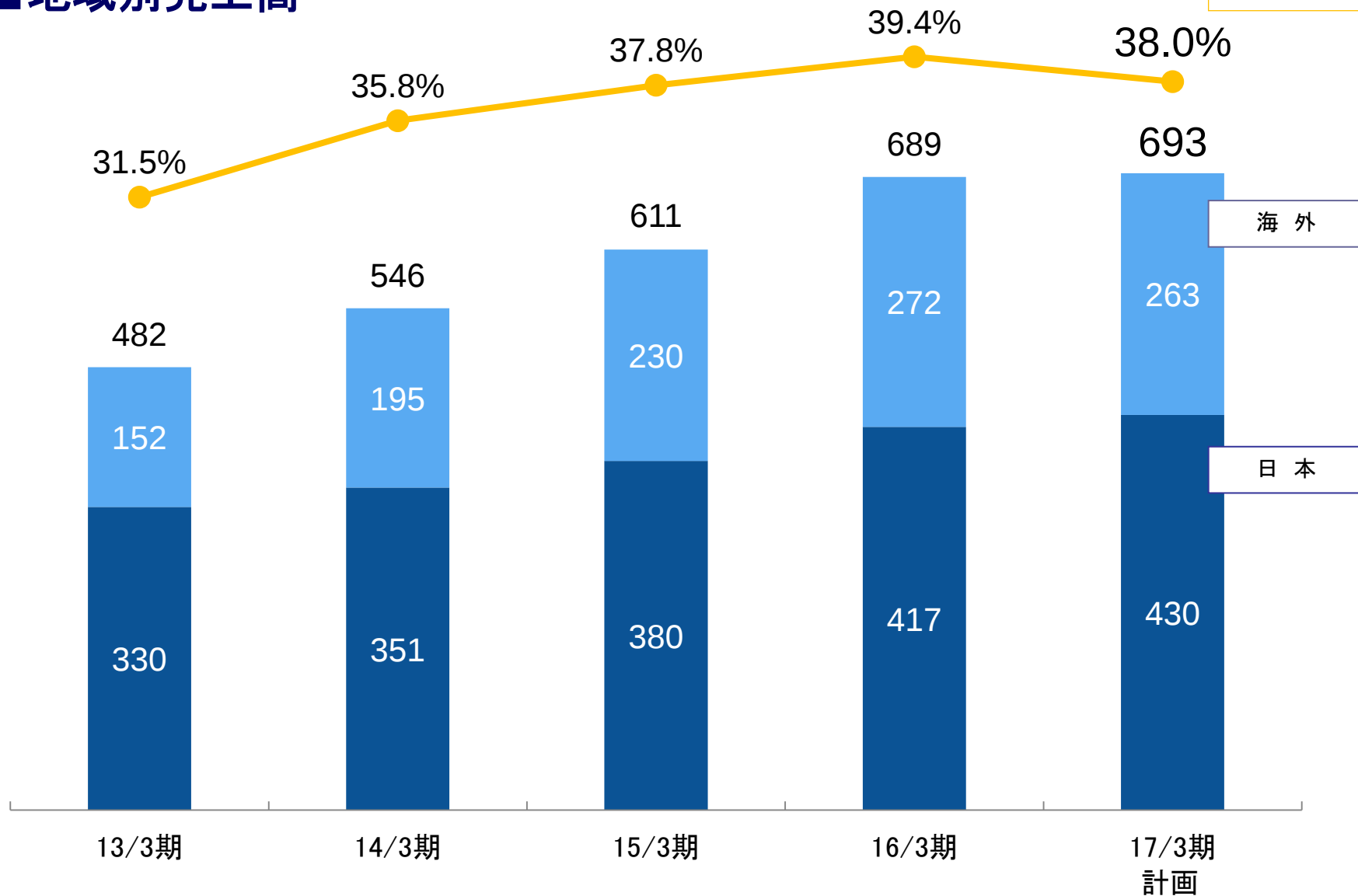




(単位: 億円)

海外売上比率

■地域別売上高



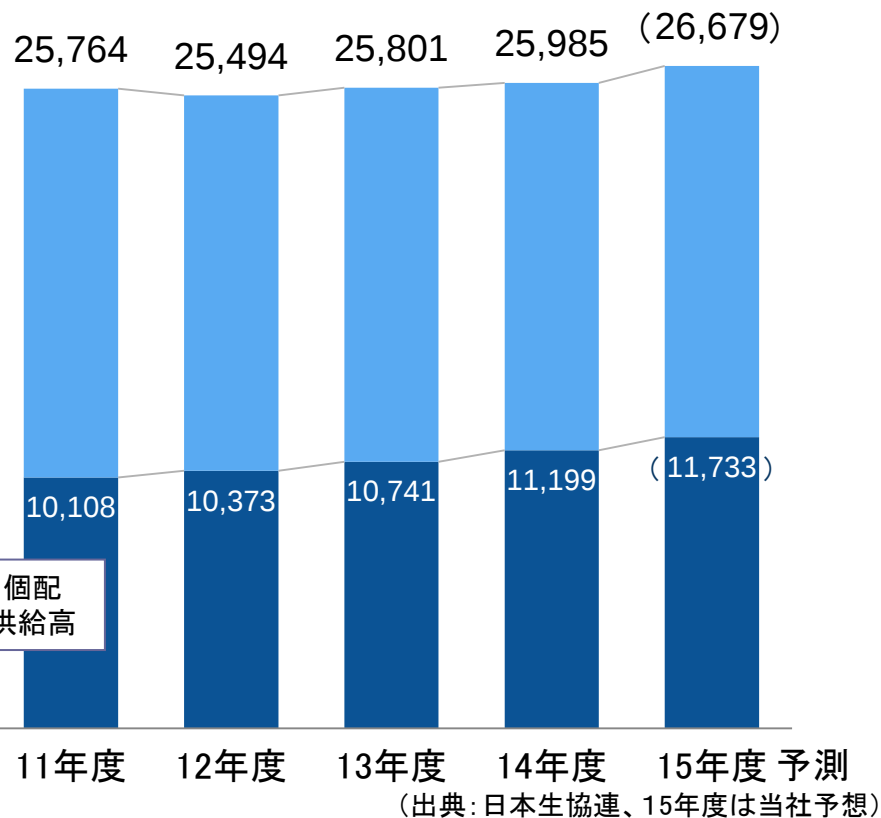
2. 消費物流

(流通サービス)



■生協の「供給高」

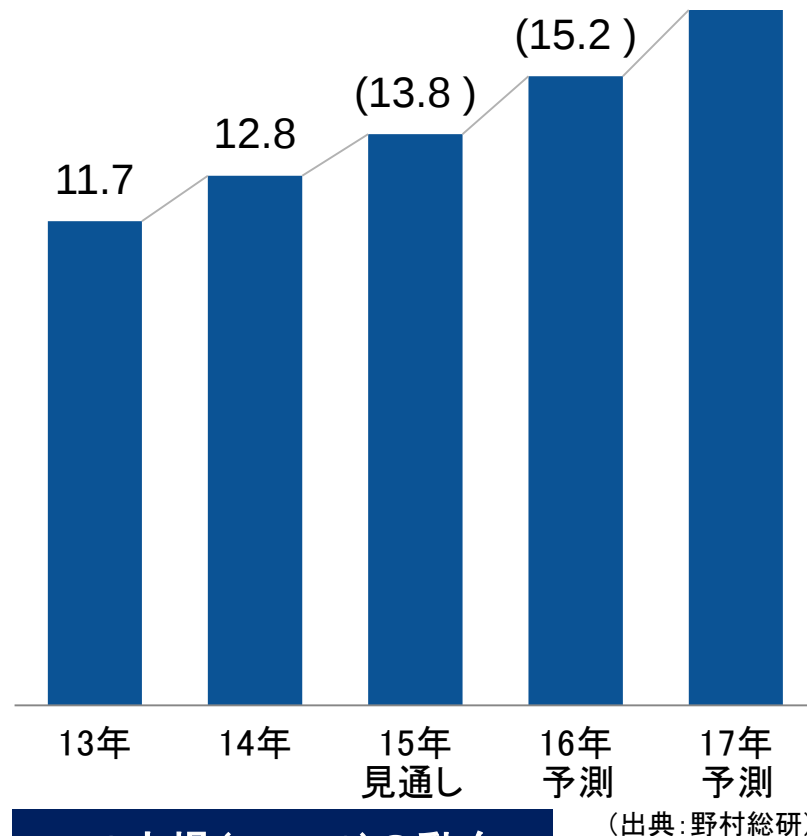
(単位: 億円)



生協関連の動向

- ・個配は14年度+4.3%、15年度+4.7%で好調継続
- ・組合員数(14年度 2,058万人)も右肩上りで増

■日本の「EC市場規模」

(単位: 兆円)
(16.8)

EC市場(B to C)の動向

- ・市場規模拡大、中期的にも二桁成長継続
- ・競争激化、ドライバー始め人手不足が慢性化

中期基本方針

強みである消費物流に特化、基盤強化と変革を推進

2016年度の事業方針と展開施策

事業の安定と拡大

- ① 生協物流：更なる関係強化による安定成長
- ② 一般物流：EC物流、医薬品物流への拡販

顧客ニーズ対応力向上

- ① 「業務品質」、「安全品質」の向上
- ② 省力化や生産性向上の改善活動の推進

人材の確保・育成

- ① ドライバーを中心とした採用力の強化と育成
- ② 「提案力」、「営業力」、「現場力」の強化

強みの分野に経営リソースを集中、事業拡大と体質強化を推進

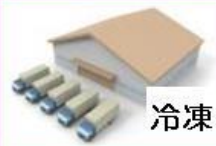
「生協物流」の深耕拡販

「セトセンター業務」拡販＋「個配業務」拡大

生協セトセンター



ドライ



冷凍・冷蔵

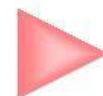


農産他



生協 個配センター





組合員



週1回のお届け

「一般物流業務」の拡大

「EC物流」、「医薬品物流」の拡販





物流インフラ拡充の状況

	16/3期	17/3期
拠点数	107	107ヶ所
倉庫面積	233	233千㎡
トラック台数	2,158	2,203台



西宮北物流センター



騎西物流センター



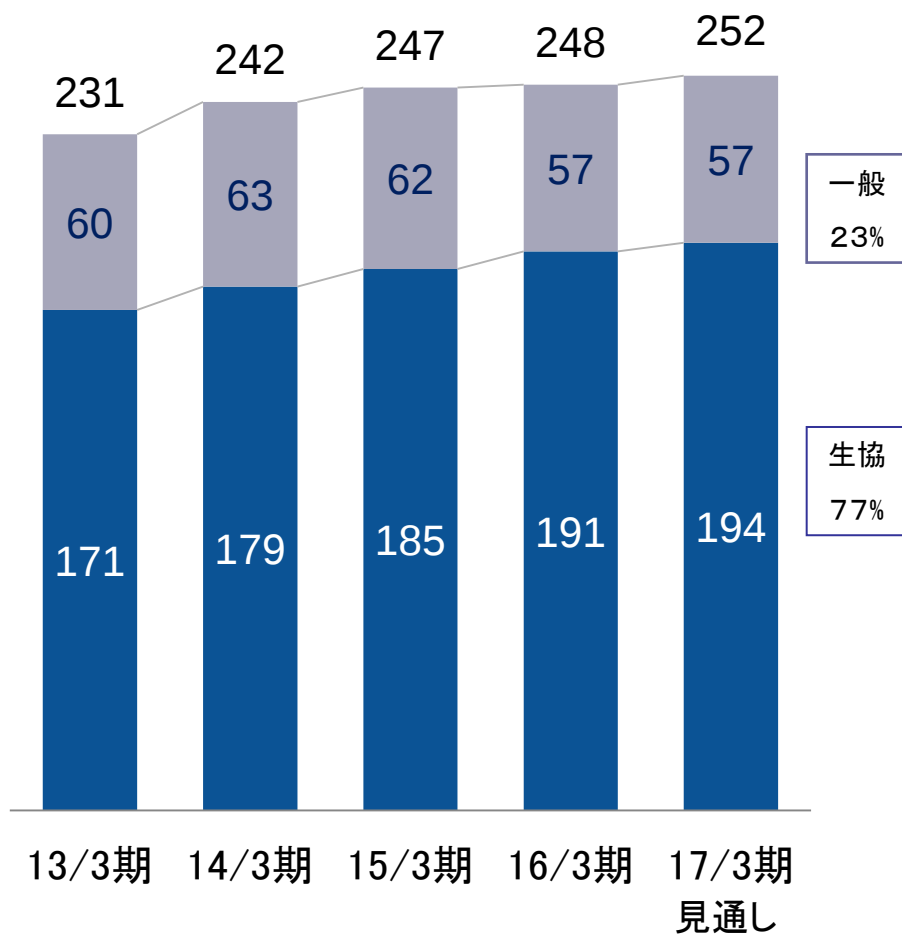
八潮物流センター



- 本社・事業所
- 物流営業所
- 個配センター

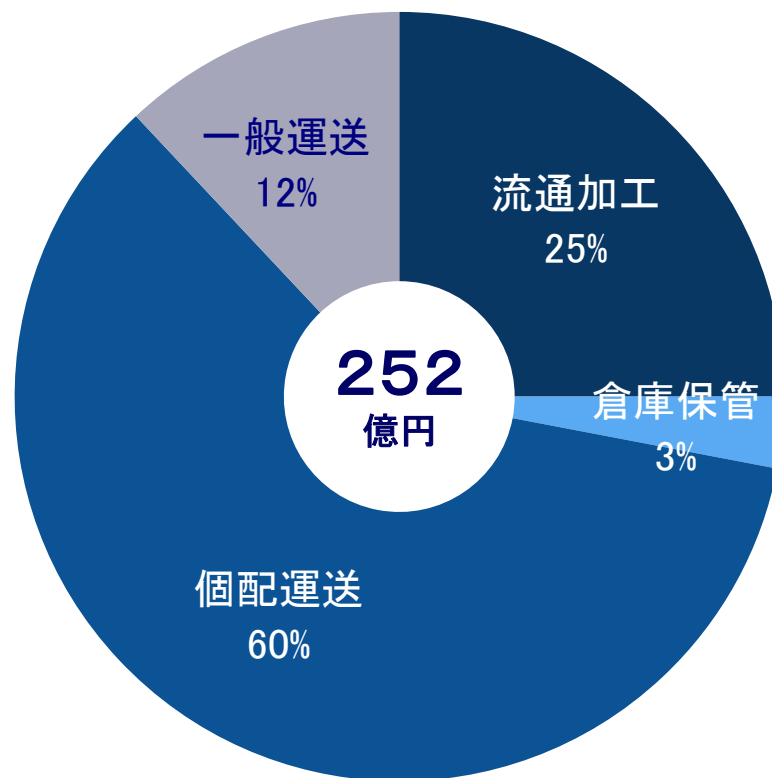
■顧客別売上高

(単位: 億円)



■事業別売上高

17/3期 見通し



配 当 計 画

(2016年3月期期末配当及び2017年3月期計画)



1. 目的

株式の流動性を高め、より投資しやすい環境を整備し、投資家層の拡大を図る。

2. 内容

①分割の割合

普通株式 1株に対して2株

②基準日

2016年 3月31日

③効力発生日

2016年 4月 1日

④発行済株式数

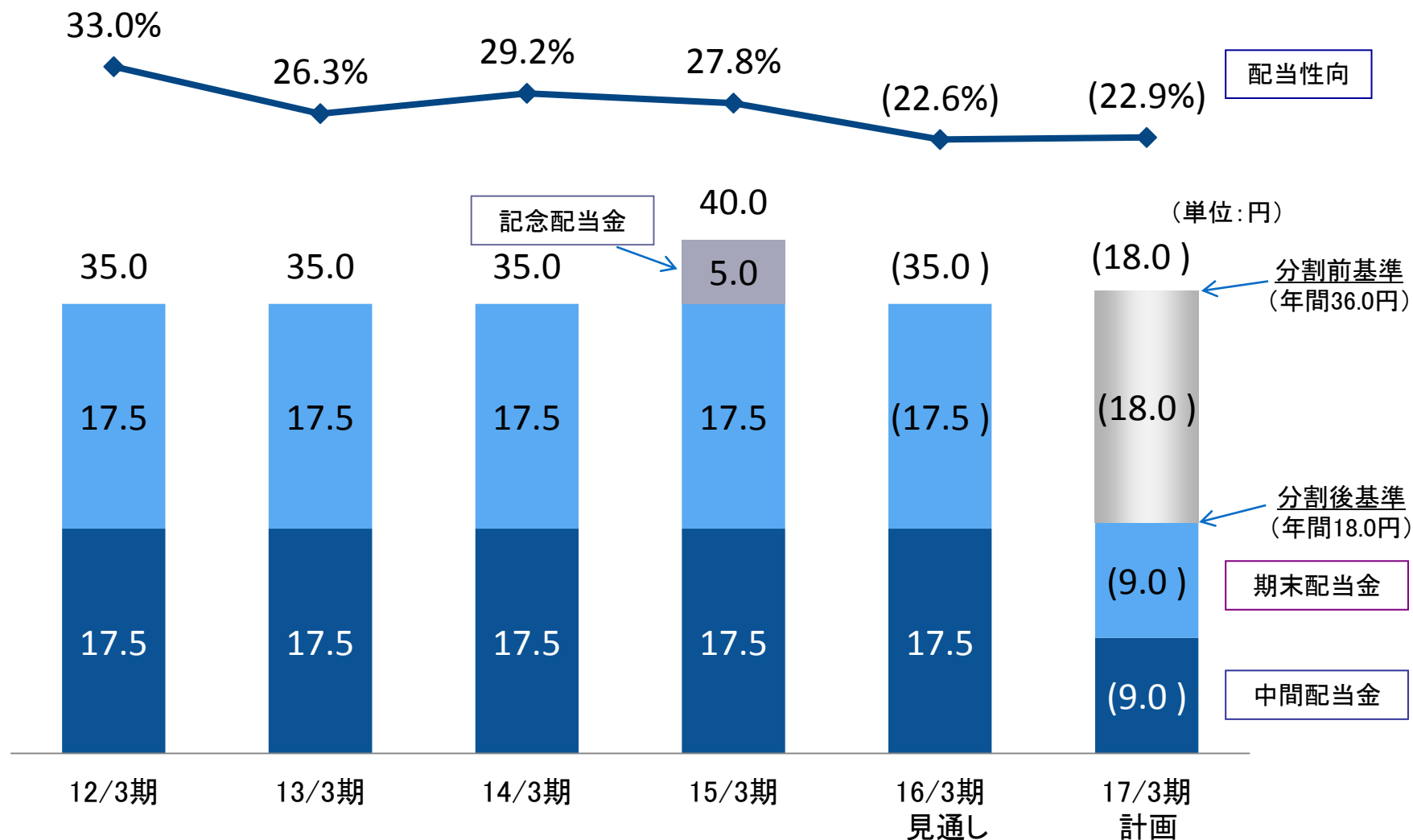
17,737,200 株 ⇒ 35,474,400 株 (+17,737,200 株)

<ご参考>

単元株主数

2015年3月期 2,236名 ⇒ 2016年3月期 2,844名 (+608名)

1株当り配当金：安定配当を継続し、水準向上を目指す



※2017年3月期の配当計画は、分割前の基準に換算しますと1株当たり36円となり、1円の増配となります。

ご清聴ありがとうございました
今後ともご支援を賜りますよう
宜しくお願い申し上げます

注意：

本資料に記載された業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、不確実な要素を含んでいます。

実際の業績等は、業況の変化等により、記載されている予想数値と異なる場合があります。

また、本資料は会計監査対象外となっています。